南米ととやま

発行所
富山県南米協会
〒930－0096
富山市舟橋北町4-19
電話（076）441-6148
FAX（076）444-2179
E-mail toyama-nanbeikyoukai@sepia.ocn.ne.jp
北陸銀行県庁内支店
普通預金口座1098740
郵便振替口座00760-8-5145

おみやげの浴衣を着て

鹿熊会長あいさつ

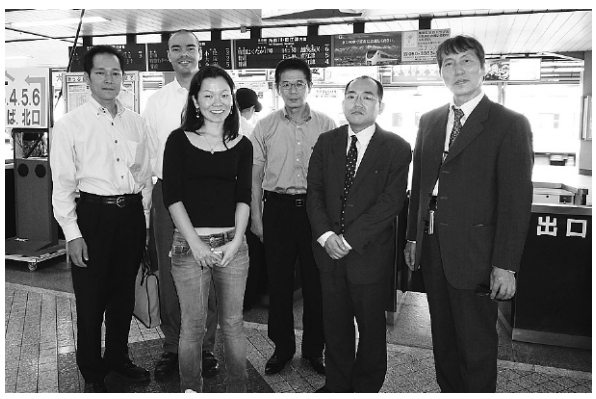
石井知事祝辞

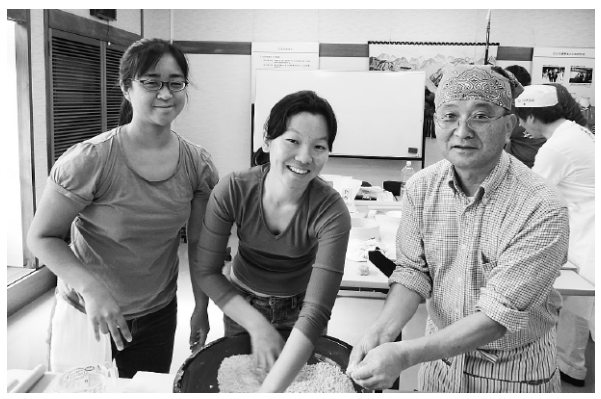
おわらの輪おどりに参加

30周年を終えて

ブラジル県人会根塚会長、林顧問とともに

30周年記念行事と本年度の交流


布村エヴェリンさんの富山駅出迎え


そば打ち体験

国際交流フェスティバルのカラオケ大会

謹賀新年

衆議院議員	衆議院議員	衆議院議員	衆議院議員	参議院議員	参議院議員	参議院議員	参議院議員
村井宗明	宮腰光寛	橘慶一郎	長勢甚遠	河合常則	又市征治	森田高	山田俊男	広野允士

新年のごあいさつ

富山県南米協会会長　鹿　熊　安　正

二〇一〇年の年明けを心よりお喜び申し上げます。

さて、昨年は、富山県南米協会設立三十周年の記念式典を六月二〇日に実施したところであります。

本会が設立以来、多くの皆様のご理解のもとに善意に支えられてきたことを改めて痛感したところであります。

さらに、それ以前には、明治から戦前戦後を通じて本県から約三千人の方が海外移住された中で、うち南米にはブラジルを中心に約二〇五〇名、中米諸国には約二〇〇名が、新天地を求めて雄飛されたものの、多くの方はまさに血の滲むような苦労をされて、今日を築かれたと伺っております。

本年は、富山県と南米との交流において、①一九一〇（明治43）年の富山県人南米移民から一〇〇周年、②一九六〇(昭和35)年のブラジル富山県人会発足から五十周年、③一九八五（昭和60）年の富山県・サンパウロ州友好提携から二十五周年という三つの大きな慶事が重なる節目の年にあたります。

本会は、この記念すべき年には、一般からの公募を含む南米親善訪問団を組織し、県、市町村の首長、議会をはじめ、芸術・文化、経済界など各界各層の皆様とともに現地を訪問する計画をいたしております。なお、訪問時期については、本年秋には、ブラジルが大統領、州知事をはじめ、連邦上下議会議員、州議会議員の選挙が実施されることから、現在のところ七月下旬に出発してお盆前には帰国する予定であります。

移住された方々への激励、第三アリアンサ富山村をはじめ県人会の移住者家族子弟との交流、富山での留学生・技術研修員経験者の立山フレンド会との交歓、サンパウロ州政府への表敬、記念式典などを通じ、さらに本県と南米諸国が太い絆で結ばれ親善が深まることを期待したいと考えております。

折りしも、二〇一六年には、南米初のオリンピックがリオデジャネイロで開催されることになり、BRICsの一員として上昇気流に乗るブラジルをはじめ、南米諸国の実情を改めて垣間見る絶好の機会になるものと存じます。

会員の皆様をはじめ、富山県、市町村、経済界、関係団体にとって、本年がよい年になるよう祈念し、あいさつといたします。

「新しい年を迎えて」

富山県知事　石　井　隆　一

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい平成二十二年の初春を皆様とともに寿ぎたいと存じます。

富山県南米協会には、昭和五十四年の設立以来、本県と南米諸国を結ぶ友好の懸け橋として、南米との交流事業や県出身移住者の支援、ポルトガル語教室の開催など、幅広い活動を通じ、本県の国際交流の推進に多大なご貢献をいただいています。

ここに、鹿熊会長はじめ会員の皆様の並々ならぬご尽力に対し、心から敬意を表し、感謝申しあげます。

さて、本県からブラジルへの移住は、一九一〇年（明治四十三年）、旅順丸が県人十名を乗せてサントス港に入港したことに始まり、戦前戦後を通じて多くの方々が移住され、幾多の困難を乗り越えながら、現地社会の発展に大きく貢献してこられました。

こうした本県出身者のブラジル移住が縁となり、本県とサンパウロ州は、一九八五年（昭和六十年）に友好提携を締結し、これまで、留学生や研修員の受入れを行うとともに、県人の方々が切り拓いた第三アリアンサ村への日本語教師の派遣、友好記念奨学金の交付、訪問団の派遣など、様々な交流・協力事業を実施してまいりました。さらに、昨年から新たに、サンパウロ州から教育関係者を「多文化共生推進研修員」として県内小学校へ受け入れ、日系ブラジル人の子どもたちの生活環境の改善に取り組んでいるところです。

ご存じのとおり、ブラジルは、ブリックスの一員として着実な経済成長を遂げており、加えて、二〇一四年にはサッカーワールドカップ、二〇一六年にはオリンピックなど世界的なイベントの開催が予定され、更なる発展が期待されています。

折しも本年は、県人のブラジル移住百周年、ブラジル富山県人会設立五十周年、本県とサンパウロ州との友好提携締結二十五周年という大きな節目の年にあたります。貴協会には、この記念すべき年に大規模な南米親善訪問団を派遣されると伺っていますが、この訪問は、成長著しいブラジルや南米諸国との相互理解と友好協力関係を促進するうえで、絶好の機会になるものと存じます。

平成二十二年が、富山県南米協会、各県人会をはじめ県人の皆様、そして県民の皆様にとりまして、実り多い年となりますことを念願しています。

終わりに、富山県南米協会の限りないご発展と役員、会員の皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、新年のあいさつといたします。

謹賀新年

富山県議会議員（議席順）

議長　梶　敬信　氷見市丸の内
副議長　高平公嗣　中新川郡立山町
場家茂夫　富山市婦中町
柴田陽子　高岡市野村
武田慎一　南砺市福光
筱岡貞郎　小矢部市水島
吉田豊史　富山市西長江
山本徹　高岡市扇町
井村昭彦　高岡市福岡町
神田真邦　滑川市中川原
火爪弘子　富山市豊城町
山上正隆　高岡市長江
田尻繁　富山市住吉

矢後肇　高岡市醍醐
宮本光明　富山市八尾町
渡辺守人　高岡市末広町
五十嵐務　富山市中島
高野行雄　魚津市大海寺野
稗苗清吉　魚津市稗畠
坂野裕一　富山市経堂
島田一　富山市中市
上田英俊　下新川郡入善町
酒井眞次　中新川郡上市町
中川忠昭　富山市中川原
大野久芳　黒部市生地
横山栄　黒部市石田

山辺美嗣　南砺市やかた
杉本正　富山市岩瀬堺町
湊谷道夫　射水市立町
菅沢裕明　氷見市栄町
江西甚昇　富山市打出
坂田光文　富山市中大久保
鹿熊正一　下新川郡朝日町
仲外喜雄　富山市若竹町
四方正治　射水市八幡町
米原蕃　砺波市中村
横田安弘　高岡市鴨島町
平村国光　富山市向新庄町

新年を迎えて

富山県議会議長　梶　敬信

新年明けましておめでとうございます。

ブラジル、アルゼンチン、ペルー等南米各地で新年を迎えられました県人会の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと、心からお喜び申しあげます。

富山県南米協会におかれましては、富山県と南米諸国とを結ぶ友好の懸け橋として活発な活動を展開され、本県国際交流の推進に多大なご貢献をいただき、深く感謝を申しあげます。

さて、昨年は、貴協会が設立三十周年という大きな節目を迎えられたところですが、さらに本年は、県人のブラジル移住百周年、ブラジル富山県人会設立五十周年、本県とサンパウロ州との友好提携締結二十五周年という大きな節目となる記念すべき年であります。

富山県民とともに心よりお祝い申しあげますとともに、関係各位の皆様方のこれまでのご尽力に対し深く敬意を表します。これからも南米諸国の皆様との友好・交流の推進に一層ご尽力いただきますようご期待申しあげます。

ご承知のとおり、情報通信技術の発達や経済のグローバル化が進む中、「人、もの、情報」の流れは世界的規模となってきており、本県が国際社会の一員としてさらに発展していくためには、県民や企業、民間団体などによる、経済、文化、スポーツ、学術などの幅広い交流を推進することが、一層重要になってきております。

県議会といたしましては、時代の潮流に即応した諸施策を積極的に推進し、『人が輝く元気とやま』の創造に努力してまいる所存であります。

富山県南米協会、各県人会はじめ県人の皆様には、今後とも引続き友好親善や交流活動にご尽力賜りますようお願い申しあげますとともに、新しい年が皆様にとりまして希望に満ちた幸多い年となりますようお祈り申しあげ、新年のご挨拶といたします。

年頭の御挨拶

ブラジル富山県人会会長　根塚　弘

新年明けましておめでとうございます。

富山県南米協会に於かれましては、昨年は設立三十周年という節目の年を迎えられ、六月には記念式典が盛大かつ和やかに催されました。

当県人会から林顧問と私がご招待を受け、出席させて頂いた感激も昨日のように蘇ります。

富山県の発展ぶりには、目を見張るばかりでした。

さて、本年は『富山県人ブラジル移住百年、県人会創立五十周年、富山県とサンパウロ州との友好協定二十五周年』という三重の記念すべき年となります。

ブラジル富山県人会では、来る八月一日にサンパウロにおいて、記念式典を開催することに決定し、現在、その準備を進めております。

石井富山県知事にも是非、ご出席賜りたいと願っており、併せて富山県から多くの皆様方のご出席をお待ち申し上げます。

それに先立ち、富山県がブラジルに対してどういう協力、援助を行っているかをつぶさに調べ、その第一として、サンパウロ大学生への奨学金制度から始めました。

一九七〇年代には全ブラジル人口の一パーセントにも満たない日系人が、サンパウロ大学（日本の東大、京大に匹敵する）で学生数の二十パーセント近く（現在でもそれに近い学生割合）在学し、富山県のサンパウロ大学生への奨学資金の合格者が、当初は日系人が殆どでしたが、現在では立場が逆転し、非日系の純粋ブラジル人がその大半を占める様になりました。

彼らにとっては、富山県からの奨学金がどれだけ勉学の役に立ち、それを続けて受領するためには、一生懸命勉学に励まなければいけないという自覚があるようです。

将来、彼らがブラジルと日本の架け橋と成る事を確信しています。

今後とも尚一層の南米協会よりの御協力とご支援を願い致します。

最後になりましたが、富山県南米協会の末永いご発展を遠くブラジルの地よりお祈りを申し上げます。

二〇一〇年（平成二十二年）元旦

海外富山県人会役員名簿（2009年度）

◎ブラジル

相談役	山岸清吉
〃	佐々木武一
〃	布村正
〃	高岡政蔵
〃	武部順子
〃	清水克宣
会長	根塚弘
副会長第一	前田進
副会長第二	松本忍
副会長第三	北谷セウマ美恵子
副会長第四	森岡行雄
副会長第五	市川利雄
会計	柳信二
〃	藤田アンジェラ
書記	市川利雄（副会長兼務）
〃	谷口ロベルト
〃	中尾契信（事務局長）
企画	浅野隆史
〃	新城真利枝
文化	上野信行
〃	栗岡幸子
〃	新谷A巴
壮年	密田勢二
〃	黒田R健二
婦人	密田絹子
〃	柳八重子
〃	藤田ハルメ
渉外	西田弘
〃	井川野口悦子
〃	平松オスカル
カラオケ部	浦島紀昭
〃	田中順子
正監事	武本政志
〃	長沢泰之
〃	伊藤嘉章
副監事	市川三郎
〃	大房伸一
〃	広瀬義夫

支部長

アリアンサ	西田一郎
ミランドポリス	長沢泰之
モジダスクルーゼス	竹本政志
スザノ	大房伸一
クリチーバ	西井良雄
ロンドリーナ	山崎英次
ドラセーナ	中川パウロ亮
ペレイラバレット	水野義治
カンポグランデ	上坊寺祐信
サンミゲールアルカンジョ	広瀬義夫
マナウス	大谷尚視
ベレン	碓井道雄
カンピーナス	前田進
ソロカバ	新出朝子
マリンガ	塚田武夫
ジャーレス	松本美都子
サンジョセドスカンポスフォルタレーザ	山崎留三
リオデジャネイロ	伊藤嘉章
テイシェイラデフレイタス	羽広政吉
ブラジリア	柚木見喜

青年部（立山フレンド会）

会長	松本忍
副会長	渡辺エドワルド健二
副会長	長谷川マリーゼ清子
第一書記	北谷セウマ美恵子
第二書記	谷口ロベルト
第一渉外部長	新城真利枝
第一会計部長	坂尻ネイデ美代
第二会計部長	浅野エヂソン学
第一体育部長	新谷アデリア巴
第二体育部長	長谷川ルシアナまち子
監査役	市川良一

◎アルゼンチン

相談役	西村菊雄
〃	栄平三
〃	喜田正雄
〃	山田ホルヘ
〃	松井武雄
会計監査	芦谷龍一
会長	川滝幾郎
副会長	村藤修
幹事	栄リカルド
会計監査	高田ディエゴ

（立山友の会）

会長	芦谷ビビアーナ
幹事	栄リカルド
会計	高田ディエゴ

◎ペルー

会長	高野ファウスト
副会長	谷井トミエ
書記	柳瀬イザベル
会計	水島多季子

◎ボリビア　澤元静雄

◎パラグアイ　山本忠雄

謹賀新年

富山市	市長	森雅志	議長	本幸正	
高岡市	市長	高橋正樹	議長	盤若進二	
射水市	市長	夏野元志	議長	四柳允	
魚津市	市長	澤崎義敬	議長	山本弘吉	
氷見市	市長	堂故茂	議長	地家太一	
滑川市	市長	中屋一博	議長	中川勲	
黒部市	市長	堀内康男	議長	辻泰久	
砺波市	市長	上田信雅	議長	山田幸夫	
小矢部市	市長	桜井森夫	議長	沼田信良	
南砺市	市長	田中幹夫	議長	且見公順	
舟橋村	村長	金森勝雄	議長	竹島ユリ子	
上市町	町長	伊東尚志	議長	田中義明	
立山町	町長	舟橋貴之	議長	村田昭	
入善町	町長	米澤政明	議長	松澤孝浩	
朝日町	町長	魚津龍一	議長	中陣将夫	

研修員ファビアナさんの見た日系人児童の教育

2009年6月から※1「富山県多文化共生推進研修員」としてブラジルから高岡市立野村小学校で研修を受けていたFabiana Patrocinioさん（ファビアナ・パトロシニオ、27歳）は、6ヶ月間の研修を修了し、1月8日に帰国した。現地で、日本から帰国した日系人の子供への教育支援での活躍が期待される

ファビアナさんは、2003年にサンパウロ州立大学（UNESP）で文学学士号及び日本語・ポルトガル語教員免許を修得し、2004年からブラジル人に日本語を、来伯者にポルトガル語を教えている。日本の人気俳優オダギリ・ジョーが映画撮影のため来伯した際に、ポルトガル語を教えた経験もある。

本県での研修についてファビアナさんに話してもらった。

(1) ブラジル国籍の子供たち

研修内容は、富山県でブラジル国籍の子供の学校教育を手伝うことは来日前からわかっていたが、実際に学校に入ってみたらイメージと違う環境だったと言う。「ブラジル人の子供たちはみんな日本語がペラペラで、学校のルールもわかっている。そんな場所で、私はどうすればいいのか、最初は戸惑った」と語る。

しかし、徐々に学校と子供を深く知るようになって、自分の役割も分かってきた。研修の最初は教材の作成の補助が中心だったが、※2日本語教室で子供を主体的に支援することまで次第に活動範囲が広がった。子供たちと毎日ふれあって、学習上の問題の対応には「思いやりが命」だとわかった。

子供は、教師から自分のことを「この子、うるさいんだから」とか「わがままだから」、「あなたにはできないね、難しいね」など否定的に評価されると、その問題行動をそのまま続ける傾向がある。逆に、粘り強く、前向きに刺激を与えると、まるで別人のように変わる。或る時、「算数が苦手で、問題に手をつけずに『難しい』と言って宿題をしない男の子に会った。「私が『できるよ。できるからやってみて』と何回も言ったら、彼はようやくその気になった。いくつかの正解を出して、自分から『次は?』と求めるほど算数に夢中になっていった。」とファビアナさんは語る。

(2) 日本の学校教育

日本の学校に対しては、ファビアナさんは非常に良い印象を持っている。児童らが教室の掃除をすることや体験型の授業が多いことに感動した。「日本の児童は早くから自立していく。ブラジルでも児童が掃除を担当すれば、あんな落書きだらけの学校にはならないでしょう」という。

さらにファビアナさんは、サンパウロの州立学校の根本的な問題を思い出す。「サンパウロの州立学校教師は授業時間に応じて給料をもらう。時給が安いから、まともな給料を得るため、教師はできるだけ長時間教えようとする傾向がある。そうすると授業の準備に時間がなくなり、授業の質も悪くなる。日本の教師は月給制で、教える時間と準備時間がちゃんと認められているので、準備は万全にできる」。更に、日本の教師の質もファビアナさんの心をつかんだ。「一人の教師が体育、音楽、算数、理科など、何でもこなしている。すばらしい。」とファビアナさんは感動する。

「日本の学校の問題は?」と聞くと、ファビアナさんは、日本では、子供たちの個性を大事にしていないことを指摘する。ファビアナさんは、「ブラジルでは子供は服装の選択に或る程度の自由がある。女の子はイヤリングやマニキュアをしていても先生は気にしない。それで子供は、人それぞれの違いを認めることを覚える。」と説明する。

日本の学校に通っているブラジル人の子供たちの問題については、家族の不安定さを指摘し、日本の教師はそういう障害を充分に意識しているのかどうかわからないと言う。「全体的に見れば、ブラジルの子供は日本の子に負けない学力がある。しかし、やはり何人かには問題がある。一番難しいのは、親が若くして離婚しているとか、家庭内が安定していない子供。その子たちは、大きくなったら何になりたいか、希望が持てない。そういう子供の背景は、日本の教師には想像しにくいかもしれない。」とファビアナさんは考える。

(3) 研修を終えて

富山での研修を修了し、何が一番楽しかったかと聞くと、ファビアナさんは瞬き一つせず、「子供たちと友達のようになれたこと。お互いブラジル人だからか、相性がいい。別れるのは、つらい…」と答える。

帰国後、ファビアナさんは語学教師の仕事に戻るが、ISECや教育局に協力を求められたら、いつでも力になれる体勢をとるつもりだと力強く答えてくれた。他に、英語を磨く意志がある。「できれば、イギリスで何ヶ月か留学したい」と、更なるキャリアアップにも意欲的だ。

※註1「多文化共生推進研修員」事業
富山県が友好提携先のサンパウロ州から教員等を招へいし、日本の教育制度を学んでもらうとともに、教育現場でブラジル人児童の教育支援を行う事業。21年度からはじめて実施した。サンパウロ州においてはNPO「教育・文化連帯学会」（ISEC）とサンパウロ州教育局が日本から帰国したブラジル人労働者の子供への教育支援を提供する「カエルプロジェクト」を実施している。富山県は、このプロジェクトと連携しており、帰国後、プロジェクトで活躍できる人材を育成することも目的の一つとしている。

※註2「日本語教室」
外国籍児童に対して、日本語や教科の補助を行う教室。

取材
県ポルトガル語国際交流員
エヴェルソン・レモス

南米諸国との交流推進を期待します

五十音順

賀正
平成二十一年元旦

株式会社旭工業
代表取締役
前田誠
南砺市殿

射水建設興業株式会社
取締役社長
夏野麗子
射水市小島

魚津清掃公社
代表取締役
廣瀬和夫
魚津市大光寺

小川温泉元湯ホテルおがわ
代表取締役社長
鹿熊裕二
朝日町湯ノ瀬

有限会社河合呉服店
代表取締役
河合常晴
南砺市城端

川原興業株式会社
代表取締役
川原恵津子
富山市八尾町

北日本印刷株式会社
代表取締役社長
川口秀春
富山市安住町

北日本新聞社
代表取締役社長
河合隆
富山市安住町

高新工業株式会社
代表取締役
高平伸
立山町大清水

有限会社酒井工業コンサルタント
代表取締役
酒井佐和子
朝日町草野

坂井石油株式会社
代表取締役
坂井昭二
立山町坂井沢

新栄建設株式会社
代表取締役
高平剛
立山町大清水

漫画「ほしのふるまち」映画化へ

氷見を舞台にした青春ラブストーリー漫画「ほしのふるまち」（原　秀則さん作）が、映画化されることになった。実写映画の制作者は、ブースター・プロジェクトで、金杉弘子さんの脚本により、小学館や北日本新聞社などが加わり、制作のため春にも氷見でロケが始まる。

漫画「ほしのふるまち」は、漫画雑誌「週刊ヤングサンデー」に平成18年１月から２年にわたり連載され、コミック全７巻が完結している。

作品のあらすじは、東京の進学校で落ちこぼれた失意の高校生恒太郎が、氷見の高校に転校し、親戚の家に居候する。そこで、父を亡くし幼い弟妹の面倒を見ながら明るく生きる地元の少女の渚に出会い、少しずつ再生に向けて変わり始める。

プロデューサーには、射水市小杉町出身の須藤　晃（昭和27生）さんが就任し、監督は川野浩司さんが務める。

インカ帝国のルーツ

黄金の都
シカン展

2010年１月９日㈯～３月７日㈰

富山県民会館［美術館］

鹿熊会長
南米出身の留学生ら
皆さんをご招待

ブラジルから来県している県費留学生、海外技術研修員、国際交流員は、南米協会鹿熊安正会長のご厚志により、10月30日㈮一泊で朝日町の小川温泉元湯へ招かれた。

温泉では情緒豊かな温泉に浸り、山海の珍味を賞味し、同宿のお客さんとカラオケに興じ、大いに盛り上がり、大満足であった。

鹿熊会長夫妻とともに

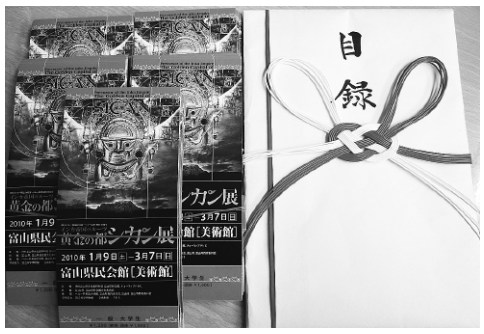
「黄金の都シカン展」
入場券の寄贈

1月9日㈯から3月7日㈰までの約2ヶ月間にわたり、日本人ペルー移民110周年等を記念して、標記展が富山県民会館美術館においてチューリップテレビ等の主催により開催される。

本展は、富山県婦中町出身の写真家である義井　豊（よしい　ゆたか）氏が企画全般に協力されたとのこと。

この度、総合エンターテイメント企業（ホール事業、H&B事業、飲食事業を営む）エスタディオ・グループの好意により、当南米協会に対し、主催者チューリップテレビ（代表取締役社長　池森武宣氏）を通じて、同展入場券（500枚）の寄贈があった。

この入場券は、南米協会会員及び関係の皆様に配布されることになった。



南米諸国との交流推進を期待します

五十音順

株式会社新日本コンサルタント
代表取締役会長　市森　武　富山市吉作

株式会社北日商会
代表取締役　竹内　茂　富山市婦中町速星

丸新志鷹建設株式会社
代表取締役社長　志鷹新樹　立山町芦峅寺

高岡地方交通株式会社
高岡市井口本江

北陸アルミニウム株式会社
取締役社長　荒井　毅　高岡市笹川

株式会社四方組
取締役社長　四方正江　射水市作道

株式会社タカギセイコー
代表取締役社長　笠井千秋　高岡市東二塚

道路技術サービス株式会社
代表取締役　山本光夫　射水市橋下条

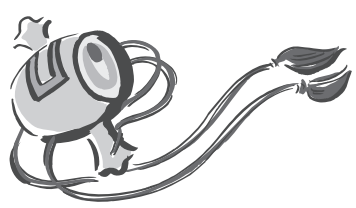
米原商事株式会社
砺波市栄町

にいかわ信用金庫
理事長　千田則行　魚津市双葉町

株式会社北陸銀行
頭取　八嶋健三　富山市堤町通

株式会社婦中興業
代表取締役社長　竹内　茂　富山市婦中町速星

株式会社北陸銀行
頭取　高木繁雄　富山市堤町通



ＹＫＫ株式会社
代表取締役社長　吉田忠裕　黒部市吉田

ブラジル駐在を想う

森井　一好（元㈱不二越　南米駐在員）

私は、昭和46年3月、広大な土地、豊かな資源を有する国ブラジルに派遣を命ぜられ、一年半の駐在を経験した。

その間、基幹産業の市場調査をはじめ自動車産業の発展、欧米諸国の投資に対する対処方策をレポートし、日本企業の海外投資の方策の参考になるフィージィビリティ調査を行った。お陰で、明治以来の日本の移住政策の歴史を実際に肌で感じることができた。

昭和46年11月、折しも中田富山県知事が、アメリカでの知事会議の後、サンパウロに立寄られ、盛会裏に交流会を持った。丁度、その三ヶ月前に、ニクソン・ショックにより、戦後通貨体制の機軸であったブレトンウッズ体制が崩壊してドルの切下げがあり、昭和24年以来続いた一ドル三六〇円の交換比率が、46年12月のスミソニアン協定により三〇八円となった。しかし、それも維持できず、48年2月にフロート制に移行し、結局ドルは、二〇〇円台まで急激に下落し、変動相場制に変わった。そのような環境下において、日本の企業としては、海外への生産手段の移設を真剣に考えざるを得ない時代となった。

その後、日本企業の海外進出がいかに活発に行われ、国際分業を加速させたかについては、皆さんもご承知のとおりである。

このような情勢の中で、中田知事の訪伯は、実にタイムリーな時期にあたり、お陰で、私の仕事にも展望が開かれた。この知事の訪問が、ブラジル居住の富山県出身の人々に強く大きな自信を与え、現地での飛躍的な発展の契機となったものと確信する。

当時の県人会長であった長森信夫様及び密岡伝一郎様のご尽力により、さらに強力な日伯関係、とくに現地ブラジルと郷土富山との間の絆が築かれたものと思う。

また、昭和49年の第4回富山県青年の船による若者の海外派遣が、いろいろな意味で南米との交流に刺激を与えたと思う。

一方で、富山県によるブラジルをはじめ南米からの留学生・技術研修員の受入れが、昭和39年に（高柳寛氏を初代として）スタートしていたが、同47年には荒崎真知子さん（県立短大に二年間）、48年の布村貞雄氏以降は、複数での受入れが継続されているのは、誠に喜ばしい限りである。

また、富山県からの企業進出に伴い、昭和49年に高岡市がミランドポリス市と友好提携し、同54年には富山市がモジダス・クルーゼス市との友好提携を結ばれた。

昭和52年に第三アリアンサ富山村開村五十周年の記念行事があり、翌年度の後半からは同村への日本語教師の派遣（初代は上野志朗先生）が始まり、平成5年以降は、ミランドポリスにも（初代は堀井祥照先生）派遣されるようになり、現在も継続されている。

このような背景の中で、昭和54年に富山県南米協会の設立が大きなステップとなり、これら一連の対策が功を奏し、南米と富山県との交流がますます盛んになった。

今や、ＢＲＩＣｓの一員として、いよいよ大国の風格を滲ませ未来を語り合える国となったブラジルは、二〇一六年には、リオデジャネイロでのオリンピックが開催され、今後、飛躍的な発展の礎となると思われる。

終わりに、富山県南米協会が一層発展され素晴らしい国際交流団体となることを祈念申し上げる次第である。

サンパウロ空港で中田知事夫妻を出迎える
長森ブラジル県人会長

定期総会で高平会長と筆者

サンパウロで移住者に歓迎される中田知事夫妻ら

サンパウロ外国為替市況

1月5日4時(ニッケイ新聞)

米ドル相場	平行	売	1.7000Ｒ$
		買	1.8300Ｒ$
円　相　場		売	0.0170Ｒ$
		買	0.0210Ｒ$

謹賀新年

初春のお慶びを申し上げます。皆様のお蔭をもちまして昨年は、南米協会設立三十周年行事ができました。本年も無限の可能性を秘めた南米諸国との友好促進のため、親善訪問団の派遣などに力一杯努めたいと存じます。何卒、より一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇一〇（平成二十二）年　元旦

富山県南米協会

会　長　鹿熊安正
副会長　石澤義文
副会長　森　雅志
理事長　平村国光
副会長　高橋正樹
常務理事　板倉　均
副会長　河合　隆
筆頭常任理事　松任敏雄
副会長　竹島　清
常任理事事務局長　橘　秀雄